

十字路

先日米国で全米大学体育協会と学生アスリートの訴訟に和解案が出た。数年前まで選手個人に教育と無関係の収入を認めなかった協会がこれを改め、学生の過去の逸失利益も賠償するという。

つまり人気選手なら名前や肖像権を企業に使わせてプロ並みの広告収入が得られる。これを契機にメジャーな学生スポーツの商業化が一段と進むとみる向きが多く、資金を提供するファンドなども投資機会を見いだしつつある。

一方でプロ並みに収入を得るとなればリスクもある。1

プロとアマ

年半ほど前に世界3位の暗号資産交換会社FTXトレーディングが破綻した。若い創業者は禁錮25年の判決を受けて控訴中だ。民事の損害賠償訴訟も多く、その中にはバスケットボールのスーパースター、シャキール・オニールをはじめ多くの有名人が被告のものもある。広告塔となって個人投資家を詐欺的なスキームに誘導したという訴えだ。

将来、こうしたケースでプロに代わり学生アスリートが訴えられることもあるだろう。

さて、そのFTXは現在管財人の下で清算中だが、その債権者には現在名だたるディストレス投資(破綻債権投資)のファンドが名を連ねている。FTXが破綻した際、多

くの個人は預けた資金を回収できずにその債権を二束三文で売り払った。昨年後半からプロのファンドがこれに着目して買い集めたという。

暗号資産関連の会社と聞くとも何も残らない思いがちだが、実際には現預金、不動産、企業の株式などを持っている。暗号資産関連の保有資産も今年に入り価値が急回復して、債権はほぼ満額返済される見込みだぞうだ。

この件ではアマがリスクに耐えられずに撤退し、プロとの差が歴然と表れた。プロの本領とは単に稼ぐことではなく、リスクの本質を見極めることにあるのかもしれない。(タスク・アドバイザーズ

社長 眞保 二朗)